J.M.E.S

日本音楽表現学会
ニューズレター2007年度第1号

2007年8月20日発行

日本音楽表現学会第5回（火の国）大会特集号

目　　次

		頁
1. ［巻頭言］共に学んで知を磨く場	佐々木正利	2
2. 火の国大会：写真集	安藤　政輝	2~14
3. 2007年度総会報告		3
4. ［火の国大会］パネルディスカッション「映像と異文化受容」に参加して	安田　香	10
5. ［学会紹介］日本音楽知覚認知学会	荒川　恵子	11
6. 会員の所属・住所変更等		12
7. 新入会員紹介		13
8. 会員によるコンサート案内		15
9. 学会からのお知らせ		18
10. 会長からの切実なお願い		19
11. 第6回大会のご案内		19
12. 「コンサート等後援願」書式		20
13. 「入会申込書」書式		20
14. 役員名簿・編集後記		20

日本音楽表現学会事務局　〒700-8530　岡山市津島中3-1-1　岡山大学教育学部　表研究室気付
Tel. & Fax. 086-251-7647　E-mail: s-oku@cc.okayama-u.ac.jp
http://www.jpc.shizuoka.ac.jp/~eeskita/kitayama/OHG-index.html
郵便振込口座：01370-6-78225　音楽表現学会
銀　行　口　座：三井住友銀行（0009）岡山支店（651）日本音楽表現学会（普）

【巻頭言】

共に学んで知を磨く場

日本音楽表現学会理事　佐々木 正利　（声楽・合唱指揮）

「人を教育するに安易な失敗は許されない。例えば演奏家は、自らの演奏に失敗すればその評価を下げ、次の仕事が来ないだけである。自らの責任を、自らが被れば良いだけの話である。しかもそこには、敗者復活戦までが用意されている。しかし教育者が、間違ったことを真理として被教育者に伝達・指導していくことの罪は、大変重い。多くの場合、取り返しがきかない。演奏家が音楽を追究するのは当然のこととして認識されるが、音楽を題材に教育する者の、音楽に対する追究心の曖昧さは、教育という言葉の、誠に都合の良い隠れ蓑によって保護されている。自らの失敗が他に及ぼす重大性を、教育者を名乗る者は常に深く心に銘記していなければならない」

この言葉は、1991年度日本教育大学協会全国音楽部門大学部会全国大会で研究発表を担当した不肖私の、資料集の冒頭からの引用です。丁度1年前のニューズレターの巻頭言で、コダーイが語った「ブダペスト・オペラ劇場の音楽監督が偉であるかよりも、片田舎の小学校の音楽教師がどのような人であるかの方がはるかに大切だ」という言葉を中村隆夫会長が紹介され、更に音楽教師がどんな音楽家にもまして豊かな音楽性を身につけるべきことを強調されていますが、私もまったく同感であり、27年間こうした信念をもって教壇を執って参りました。また、東京芸大等の音楽大学が優れた演奏家を輩出する使命をもつ一方、私たち地方の国立大学の音楽科は、優れた聴衆を育む人材を育成することに腐心してきたと思います（勿論、優れた演奏家を育てたって一向に構わない訳ですが）。何故ならば、演奏という行為は多くの場合、聴き手を伴って初めて生命を得るからです。

ところが最近、周りの世界が微妙に変化してきました。まず目立つのは、教え導びの先生と教えられたがりの学生の増加です。2007年には大学全入時代を迎え、各大学が独自色を練る中、魅力あるキャンパス作りの一環として、いろいろなサービスを提供できるようになることを掲げてきていますが、教員が学生に答えを安易に教えることをサービスと勘違いし、また学生も学んで問う、或いは問うて学ぶという学問の本質を理解せずしては、本物の力量など身につくものではありません。

話は変わりますが、東京芸大には今年創部37年を迎える「東京芸大バッハ・カンタータ・クラブ」があります。私も創立メンバーの一人ですが、1970年頃のバッハ演奏の主流はリヒターやリリング等モダン楽器によるものでした。それが1990年頃になるとピリオド楽器全盛期を迎え、演奏スタイルも格段に変化したものです。指揮者によってこうも違うのかと唖然とさせられるほど様々な演奏があふれる昨今ですが、そんな中一昨年、私にとって大きな出来事がありました。それは積年の願いであったシュライアーとの『マタイ受難曲』の共演でした（本年3月には『ヨハネ受難曲』もやりました）。

私の専門はエヴァンゲリスト（福音史家）ですが、シュライアーはヘフリガーと並ぶ巨頭の一人。先のマタイでは私は合唱指揮を担当したのですが、シュライアーは指揮とエヴァンゲリスト両方をこなしました（これが彼のエヴァンゲリストの歌い納めとなりました）。かつて私も、ヨハネで指揮とエヴァンゲリストの両方を担ったことがありますが、その時は別指揮者を立て（鈴木雅明氏）、性格合唱への繋ぎ、導入等は鈴木氏にタクトを執って戴いたものです。しかし、この時のシュライアーは実に奇抜なポジションを取りました。彼はステージ奥、2群の合唱団の中間に位置し、オーケストラを紅海のように真っ二つに分け、何と客席を向いて指揮したのです。しかも動き回りながら。これは隅々まで完全暗譜している彼だからこそできる業でしょうが、一番驚いたのは、彼の音楽作りがとても大胆で、感情を抑えて進行役を担うべきエヴァンゲリストが、多種多彩な声色を駆使し、まるでオペラのようだったことでした。バッハの音楽が、時空を越えて多くの人々に感銘を与えてきたのは、多様な在り方を許容するその包容力にあったことを改めて思い知らされた1ページとなりました。

このように、音楽の表現とは奥が深いものです。昨日まで良しとされてきたことが、明日は古きものとされることは何の不思議でもありません。その意味でも、本学会の理念・活動は大いに評価され、期待されること大であることが、火の国大会の全般をみて感じたことでした。会員相互が教える教えられる関係でなく、共に学んで知を磨く場であることが、手取り足取りの指導をするようになってきている大学教育現場を憂う者をして、誠に頼もしく充実した2日間に浸ひしめた幸せを、最後に報告致します。

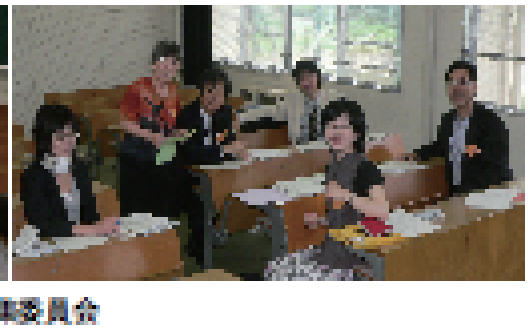
2007年度総会報告

日　　時：2007年6月16日(土)15：45−16：45
場　　所：熊本大学大学教育センターF-501
出席者数：出席者49名＋委任状74名＝合計123名　(2007年5月1日現在会員数205名)
記　　録：安田　香（神戸、ピアノ・音楽学）

1．開会の辞：中村隆夫（会長）
2．議長選出：塩和恵子（仙台、声楽）
3．報　　告：「総会資料集」記載事項に基づいて報告され、一部修正の上、以下のように承認された。
1)　2006年度事業報告（2006年4月1日〜2007年3月31日）

---

1. 第4回<グリーン・アベニュー>大会　2006年6月17日（土）〜18日（日）
　　於：岡山大学創立50周年記念会館
2. 理事会　　第1回　2006年6月17日（土）　於：岡山大学創立50周年記念会館
　　第2回以降 電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会　　第1回　2006年6月17日（土）　於：岡山大学創立50周年記念会館
　　第2回　2006年7月8日（日）　於：静岡大学北山研究室
　　第3回　2006年8月20日（日）　於：静岡大学北山研究室
　　第4回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.4　2006年11月30日発行
5. ニューズレター　No.1　2006年7月31日発行
　　No.2　2006年11月30日発行
　　No.3　2007年3月31日発行
6. 2006年度版学会員名簿　2006年11月30日発行
7. 後援　11件
8. 会員数　205名（2007年5月1日現在）



大会直前の理事会と編集委員会

2）第4回（グリーン・アベニュー）大会決算報告

【収入】

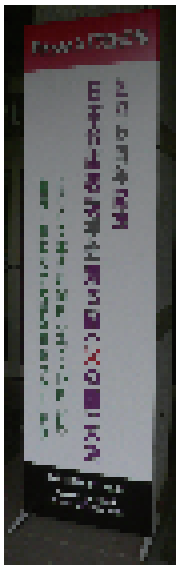
費　　目	金　額（円）	備　　考
大会参加費	497,500	学会員：　4,000円×90名 当日会員：　2,500円×46名 学生会員：　1,500円×15名
福武教育振興財団	300,000	研究大会助成
広告費・ブース料	540,000	
合　　計	1,337,500	

【支出】

費　　目	金　額（円）	備　　考
基調講演講師謝礼	100,000	交通費・宿泊費は(社)　林原共済会から援助
シンポジスト謝礼＋交通費	100,000	津上氏＋松本氏
アップライトピアノ運搬・調律	50,000	教育学部音楽棟1F←→会場
チェンバロ運搬・調律	70,000	教育学部音楽棟3F←→会場
印刷費	305,300	『大会要項』、ポスター、ちらし等
人件費	110,000	当日アルバイト代＋昼食代
実行委員会会議費	40,000	
通信費	97,200	『大会要項』送付, 後援要請等各種書類送付
雑費	60,000	
一般会計へ繰り入れ	405,000	
合　　計	1,337,500	

オープニングは４歳から成人までが参加する清正公太鼓

吉永実行委員長は自作の横笛



3) 2006年度会計報告・監査報告

【収入】

費　　目	予　算	決　算	備　　考
2006年度学会費	900,000	710,000	5,000円×138名＝690,000 過年度納入分 5,000円×４名=20,000
学会誌売り上げ	15,000	110,450	含　抜き刷り
利子		787	
大会から繰り入れ	180,000	405,000	
合　　計	1,095,000	1,226,237	

【支出】

費　　目	予　算	決　算	備　　考
『音楽表現学』印刷費	700,000	992,250	
学会誌等　発送料	85,000	97,524	
ニュースレター等用紙代	20,000	31,500	
理事会　会議費	10,000	0	
交通費	50,000	18,460	名簿、ニューズレター作成
編集委員会　会議費	10,000	8,347	
交通費	150,000	152,754	
選挙費用　投票用郵納料金	30,000	9,760	
雑費	25,000	0	
年会費（海）振込手数料	10,000	7,300	
前年度からの繰越	△　111,252	△　111,252	
小　　計	1,201,252	1,429,147	
次年度繰越	△　106,252	△　202,910	
合　　計	1,095,000	1,226,237	

上記の通り報告いたします。

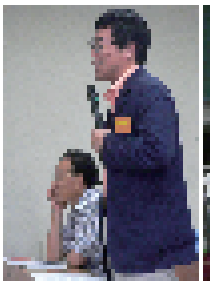
2007年６月６日　会計担当　　川口　容子　　印

上記の通り相違ありません

2007年６月６日　監　　事　　若井　健司　　印

加藤　菁子　　印

4) その他　　なし



松原千振氏には基調講演からシンポジウム、ワークショップまでお願いしました。

4．協　　議：「総会資料集」記載事項に基づいて提案され、協議の上、以下を承認・決定した。

1）2007年度事業計画（2007年４月１日～2008年３月31日）

1. 第5回（火の国）大会		2007年６月16日（土）～17日（日） 於：熊本大学 大学教育センターＦ棟
2. 理事会	第１回	2007年６月16日（土）於：熊本大学 大学教育センターＦ棟
	第２回以降	電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会	第１回	2007年６月16日（土）於：熊本大学 大学教育センターＦ棟
	第２回	2007年８月10日　於：滋賀大学サテライトスタジオ
	第３回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.5		2007年11月30日発行
5. ニューズレター	No.1	2007年７月31日発行
	No.2	2007年11月30日発行
	No.3	2008年３月31日発行
6. 2008-9年度役員選挙公示		2007年11月30日
	推薦・立候補期間	2008年２月１日～２月28日
	投票期間	2008年４月１日～４月30日
	開票	2008年５月１日
7. 後援		20件
8. 会員数		220名

懇親会では中村会長、吉永実行委員長と挨拶が続きました。

イモ焼酎と馬刺
やはり
火の国が一番だね。

2）第5回（火の国）大会予算

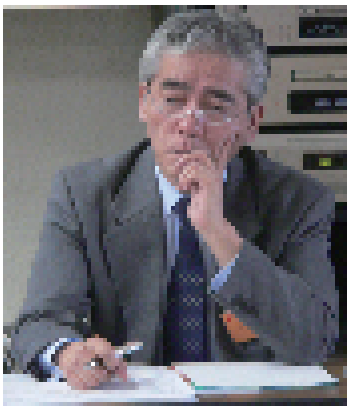
【収入】

費　　目	金額（円）	備　　考
大会参加費	300,000	
助成金	200,000	熊本国際交流コンベンション協会
広告費等	540,000	
懇親会費	200,000	4,000円×50名
合　　計	1,240,000	

【支出】

費　　目	金額（円）	備　　考
基調講演講師　謝礼	191,700	謝礼：150,000円神戸⇔熊本、宿泊（1泊）
パネリスト(1名)　謝礼	151,100	謝礼：100,000円東京⇔熊本、宿泊（1泊）
大会要項等印刷費	260,000	含・チラシ、ポスター
会場費	80,500	
実行委員会会議費	20,000	
人件費	117,100	アルバイト、昼食代、交通費
通信費	50,000	『大会要項』、ポスター、ちらし送付を含む
雑費	9,600	
懇親会費	200,000	
一般会計へ繰り入れ	160,000	
合　　計	1040,000	

分科会では発表者も司会者も真剣そのもの



3) 2007年度予算

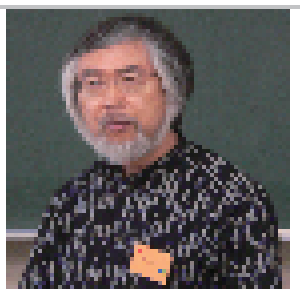
【収入】

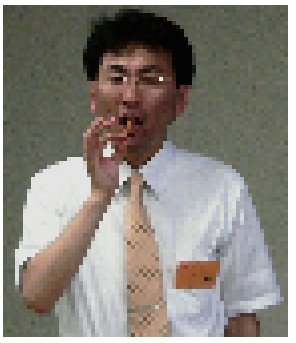
費　　目	予　算	参考　2006年度	
		予　算	決　算
2007年度会費（220名）	1,100,000	900,000	690,000
過年度会費（40名）	200,000	0	20,000
学会誌売り上げ（10冊）	50,000	15,000	110,450
利子	1,000	0	787
大会から繰入	160,000	180,000	405,000
前年度からの繰越	△　202,910	△　111,252	△　111,252
合　　計	1,308,090	983,748	1,114,985

【支出】

『音楽表現学』	印刷費	1,000,000	700,000	992,250
学会誌等	発送費	100,000	85,000	97,524
ニュースレター等用紙代		20,000	20,000	31,500
理事会	会議費	10,000	10,000	0
	交通費	50,000	50,000	18,460
編集委員会	会議費	10,000	10,000	8,347
	交通費	150,000	150,000	152,754
選挙管理委員会	会議費	10,000	0	0
	交通費	2,000	0	0
投票用紙送料（80円×220名×往復）		35,200	30,000	9,760
年会費（郵）振込手数料		10,000	10,000	7,300
雑費		10,000	25,000	0
小　　計		1,407,200	1,090,000	1,317,895
次年度繰越		△　99,110	△　106,252	△　202,910
合　　計		1,308,090	983,748	1,114,985

★　過年度会費督促について：中村会長から、会長名で該当者宛に督促状を出すと共にニューズレターで納入を促す等、未納分についての対策を講じる方針が提案され、了承された。





4) 2007-8年度編集委員会委員（◎＝委員長、○＝副委員長）

2期目委員：◎杉江　淑子、後藤　　丹、谷口　雄資

1期目委員：○小西　潤子、小畑　俊男、佐野　仁美

5) 2007-8年度選挙管理委員（◎＝委員長）

◎長岡　功、大山佐知子、佐藤　倫子

6) 日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』「投稿規定」の改訂について

新	旧
4. 投稿要領 (3)　原稿は、コピー6部を提出し、それとは別にメールに添付する。Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについて、Wordに取り込めないソフトを使用している場合には、それらに用いたソフト名とOSを明記すること。 6.　原稿締めきり 毎年5月31日とする。 附則 3.　2007年6月16日改正	4. 投稿要領 (3)　原稿は、コピー3部を提出し、それとは別にメールに添付する。Wordでの提出が望ましい。譜例・図表などについて、Wordに取り込めないソフトを使用している場合には、それらに用いたソフト名とOSを明記すること。 6.　原稿締めきり 毎年6月30日とする。 附則

＊　ニューズレター等で公表の上、今年度の原稿募集から実施済

7) 第6回大会開催候補地・期日について

期日：2008年6月14日（土）－15日（日）場所：昭和音楽大学　新百合ヶ丘南校舎

8) その他

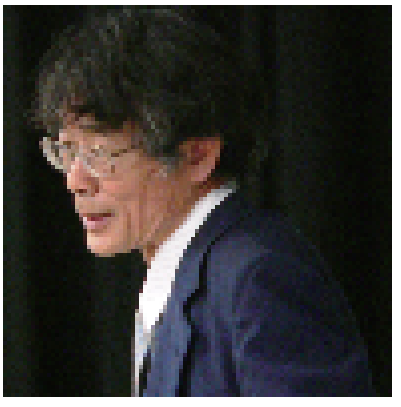
（1）参事制度の導入

事務局、会計、広報（含むHP）の各部門に参事を置く。参事は会員から選出され、理事と協力しながら事務を進める。

＊提案理由：多岐化する業務に対応する。

＊今後の手続き：内規については理事会にて作成、2008年度総会で提案する。2007年度の人選については理事会に一任する。

5．閉会の辞　中村隆夫（会長）



【火の国大会】

パネルディスカッション「聴衆と異文化受容」に参加して

安田　香

パネルディスカッションシリーズ第３弾の内容は、実に刺激的であった。テーマ設定に強い疑念を抱きつつも真摯に考察を展開された司会者・パネリストには、心底敬意を抱いた。当日咄嗟に言葉がまとまらず発言するにいたらなかったが、ここに機会をいただいたので、思うところを述べたい。

パネルでは、「聴衆」「異文化」といった用語への疑義が呈された。ここにその内容を詳述する余裕はない（大会要項ならびにいずれ機関誌に記載されるであろう報告をご参照いただきたい）が、両概念に対する問題意識には通底するものがある、と私は読んだ。こうした語で音楽を語るときこぼれ落ちるものがある、という指摘がなされたと理解している。しかし、私の考えは少し異なる。

いつの時代も、「作り手」といわれる人たちの多くは、自身の無名化を望んできた。杉江氏が（北原を引用して）述べる「オリジナルなき混淆の無限の連続体としての音楽社会」を理想としてきた。

しかしながら、私は、近代以降確立されたという（創・演・聴の三角形はさておき）「作り手―受け手」の構図は、認識されるべき、さらに検討されるべき対象であり続けると捉えている。この構図の認識なくしては、「オリジナルなき・・・音楽社会」は、何ものかに操作される社会になってしまうだろう。ちょうど熊本大会が開催されていた週末、自宅近くで「よさこい祭」があった。それには多くの団体が参加していたらしい。帰宅した私に家人が質問した：「あの人たちは誰に雇らされているの？」・・・勤務先のよさこいサークルに所属する学生から「よさこい作曲家に相当な金額でオリジナル曲制作を依頼する」と聞いていた私は、「商業主義に」と答えた。

なぜ人は美術館に出かけるのか？　なぜ小説を読むのか？　なぜ映画を見るのか・・・音楽に関わる行為だけが特別ではあり得まい。私にとって絵画や

小説や音楽作品は、野の花や青い空や甘い風と同じく自らを照らしてくれるものである。そして、無名化（＝野の花になる）を望む「作り手」の理想を支えるのは、たとえば本を閉じた時「作り手」に思いを馳せ、同著者の別の本を開く「受け手」であり、祭で古老の飾いに陶然とし、弟子入りを懇願する、あるいは次の年にも出かける「受け手」であろう。「作り手」「受け手」の両者が誠意をもって向かい合うことが求められると考える。

[学会紹介]

日本音楽知覚認知学会

荒川　恵子

私のほか、本学会でも数名の方々が入会、活躍されている「日本音楽知覚認知学会」について御紹介させて頂きます。1980年代に、京都大学名誉教授　梅本堯夫氏らを中心に「音楽心理学」と呼称される領域の研究発展を目的とする「日本音楽知覚認知研究会」が立ち上げられ、そこから発展した学会です。1989年には、京都において第1回音楽知覚認知国際会議(International Conference on Music Perception and Cognition; ICMPC)を開催し、その後、組織を整え学会として出発しました（初代会長　藤坂精一郎氏、現会長　仁平義明氏）。春秋2回の研究発表会、会報、学会誌『音楽知覚認知研究』の刊行を中心に活動を展開し、近年は「音楽と感情」研究会を立ち上げ（既に終了）、若手研究者への研究選奨の設置も行ってきました。

学会のキーワードである「音楽の知覚(perception)」「音楽の認知　(cognition)」研究とは、大雑把に言ってしまうと、人間が空気の振動である『音』に触れた際、その振動を「どのように感覚器官が受けとめ」(例えば「どのように聞こえるか」「どのように生理指標に変化が見られ、身体が機能し制御を行うのか」)「どのように脳の中で処理が行われるのか」(例えば「どのように『音』の集まりを『音楽』として把握、理解するのか」「どのような印象や感情を生み出すのか」「どのような思考が働くのか」など）に関するメカニズムやプロセスを研究対象とする領域を指しています。心理学、音響学、物理学、情報工学、医学、生理学、脳科学、音楽教育学、音楽学などの手法を用いて、定量的なアプローチによって研究する分野です。人工知能研究隆盛の現代的潮流から「音楽」という複雑で高度な情報を人間が処理する過程を調べることによって、その他の情報処理メカニズム解明に役立てようという立場から関わっている場合も多くあります。

研究発表テーマはバラエティに富み、「音の錯覚のような聴覚の知覚的特性」「音の物理的特性と心理評価との関係関係」を調べる基礎研究から、「環境音、警告音（電車の発車音や電化製品の作業終了を知らせる音など）、ゲームのＢＧＭ他、音のデザイン」に関する応用研究や「CM音楽と映像の国際間比較」のような文化的枠組みの相違を視野に入れた研究まで、幅広い範囲を包括しています。また、子どもの音楽的発達も多くの研究者によって活発に研究されています。

最近の傾向として「視覚と聴覚の相互作用」に関する研究がよく見ます（例えば「映像と音を合成した刺激の適合度」「映像と音との同期の特質」に関する研究など)。これらは映像作品制作や音のデザ

インへの応用、貢献が視野に入れられています。また、従来、実験などに用いられる音楽が、西洋音楽一辺倒であったことへの深い反省が起こり、日本音楽、民族音楽を対象とする研究も小数ながら出てきており、今後の展開が大いに期待されています。

学会の全体的傾向として、ユニークな学際的共同研究が多く見られるのが特徴であり、またそのことに私自身は大きな可能性と魅力を感じています。

演奏表現に関する研究は「演奏におけるコミュニケーション」(「演奏における芸術的意図及び感情表現とその伝達の様相」「演奏表現ルールの抽出」「演奏の物理的・心理評価類似度」「演奏表現における芸術的逸脱とその歴史的変遷」)「ＧＴＴＭなど楽曲構造分析」「自動演奏（演奏の表情づけ）」「自動伴奏」「即興演奏」「自動採譜」「自動作編曲システム」「新世代楽器演奏」「コンピュータ音楽の開発研究」などがあげられます。これらは、感性情報研究としても話られ、今後の発展が期待される研究分野です。

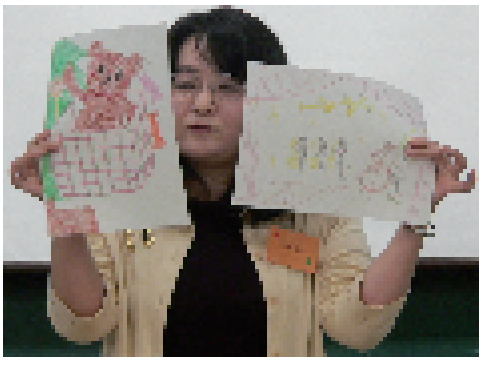
日本音楽知覚認知学会の会員から常々「演奏家、作曲家の音楽に対する研ぎ澄まされた感性や経験を研究に活かしたい」「もっと演奏家、作曲家、音楽教育、音楽学の研究者と議論、交流を深めたい」という意見がよく聞かれます。今秋の研究発表会は、11月24～25日に東京藝術大学千住キャンパスにて開催予定、来年の８月25～29日には、北海道大学にて第10回音楽知覚認知国際会議を開催予定ですので、この分野に興味のある会員の方に是非お運びいただいて、活発な議論を交わし、友好的で有益な発展的関係を築いて頂ければ、実に素晴らしいと思います。

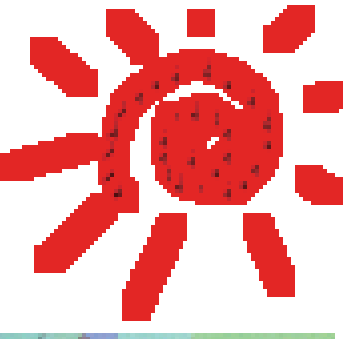
学会HPには今春、北海道大学で開催された研究発表会のプログラムが要旨つきで読めるようになっておりますので、是非ご覧下さい。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmpc/

住所・所属変更等

削除





新入会員紹介

削除

大会前夜、会場の準備を終えほっと一息。明日からの成功を祈る実行委員会・理事・発表者のプレ懇親会風景

会員によるコンサート案内

ハープ&ピアノ　ピアノと共に

日　時：2007年６月３日（日）15:00開演
会　場：長久手町文化の家　森のホール
出　演：ピアノ　岡崎　章、熊谷恵美子、ハープ　松川恭子
曲　目：ドビュッシー：ダンス、神聖な舞曲と世俗的な舞曲
　　シマノフスキ：仮面劇より「ドン・ファンのセレナーデ」、他

第25回倉吉　アザレアのまち音楽祭２００７
高嶋健次ヴァイオリン・コンサート

期日：６月16日（土）19:30開演
会場：倉吉交流プラザ視聴覚ホール
演奏：ヴァイオリン/高嶋健次、ピアノ/長谷智子
プレゼンター：清水病院
曲目：コンチェルトソナタ　ホ短調(F.M.ヴェラチーニ作曲)
　　無伴奏ヴァイオリンソナタ　第２番　イ短調　作品27(Eイザイ作曲)

夜の歌(Eエルガー作曲)、ヴォカリーズ(S.ラフマニノフ作曲)
朝の歌(Eエルガー作曲)、ツィガーヌ(M.ラヴェル作曲)

西洋楽器が奏でるラーマヤナの世界（中村滋延新作室内楽の夕べ）

期日：2007年7月21日（土）
会場：あいれふホール（福岡市健康づくりセンター）
主催：音楽工房 fmq（ふれっく）
助成：福岡市芸術文化振興基金助成公演
内容：「ラーマヤナ」をモチーフにした中村滋延作曲の新作室内楽演奏会。ラーマヤナの話展開にあわせてたプログラム。標題音楽ではなく、ラーマヤナの内容に触発されて楽想を自由に発展させた音詩。

第1曲「神々の肖像/PORTRAIT OF GODS」（ピアノ連弾）
第2曲「黄金の鹿/GOLDEN DEER」（木管3重奏）
第3曲「セダーの悲歌/ELEGY OF SEDA」（ソプラノとピアノ）
第4曲「ハヌマーンの愉快ないたずら/HANUMAN'S MERRY PRANKS」（マリンバ独奏）
第5曲「ソヴァン・マチャ/SOVAN MATCHA」（弦楽4重奏）
第6曲「リアップの最期/REAP'S END」（弦楽4重奏）

パラオからのメッセージ～南の島の歌と踊り

期　日：2007年7月29日（日）
会　場：静岡音楽館ＡＯＩ
企　画：小西　潤子
趣　旨：静岡県とも縁のあるパラオから新鋭のダンスチームを招聘し、歌や踊りを通じた市民との交流の場を創出する。
内　容：パラオの古謡と踊り、ニシモトホマレさんによるウクレレ伴奏つき 小笠原の古謡、県民によるフラ、静岡大学フラ・ボーイズによるウェルカム・パフォーマンス
連絡先：静岡大学地域社会文化研究ネットワークセンター　054-238-4900

木村貴紀ピアノリサイタル

日　時：2007年8月12日（日）15：00開演
会　場：東京文化会館小ホール
曲　目：ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第14番「月光」
　　シューベルト：「さすらい人幻想曲」　他
連絡先：プリスキラ・アーツ　03(3571)0955

柳井　修　&　森　正　ピアノ・デュオ

期日(1)：2007年 9月30日(日)　14:00 開演
会　場：倉敷市芸文館

期日(2)：2007年10月14日(日)　15:00　開演
会　場：東京オペラシティ・リサイタルホール

入場料：2,500（前売）　当日2,900　　入場料：3,000

後　援：山陽新聞社
曲　目：バルトーク：ミクロコスモスより7つの小品，ラヴェル：ラ・ヴァルス
三善　晃：唱歌の四季，ストラヴィンスキー：春の祭典

安藤政輝リサイタル「宮城道雄全作品連続演奏会 9」

と　き：2007年9月27日（木）19:00開演
ところ：紀尾井小ホール（東京都千代田区紀尾井町6- 5）
入場料：4500円（全指定席）
助　演：横　貞子（ソプラノ），藤原道山（尺八），安藤味希（箏）他
連絡先：安藤政輝　andb_masater u@yahoo.co.jp

豊田典子　ソプラノリサイタル

日　時：2007年9月23日（日）18:30開演
会　場：イシハラホール
曲　目：第1部：バロックとモーツァルトのオペラ・アリア
第2部：三善晃　組曲「四つの秋のうた」
朝岡真木子　組曲「花筏」より　他
連絡先：大阪アーティスト協会　06 - 61350 - 0503

とよたクラシック音楽同好会　103回例会
「あなたにも楽しめる現代音楽の世界」

日　時：2007年10月13日（土）14:00~16:00（開場13:30）
場　所：豊田市コンサートホール小ホール（名鉄豊田市駅東口　参号館9階）
講　師：辻　絢子
会　費：当日受付にて1000円（飲み物付き）
主　催：とよたクラシック音楽同好会（http//www7.biglobe.ne.jp/~t- classic/）
後　援：（財）豊田市文化振興財団
内　容：敷居が高く，どうしても近づきがたい雰囲気に感じられる現代音楽。ところが本当は，とっても笑える愉快な世界なのです。ショパンのあの名曲をもじった迷曲！おもちゃピアノの超難曲！なぜこんな作品が生まれてきたのか，やさしい解説をまじえたトークショー。
申込み：必ずメールにてご予約ください。nikocay@kjd.biglobe.ne.jp（長谷川 宛）

宝福英樹(Br)リサイタル「リートの旅XIV　マゲローネのロマンスをたずねて」

と　き：2007年10月15日（月）午後7時開演
ところ：銀座・王子ホール

宝福英樹となかまたちVol.III

と　き：2007年12月15日（土）午後2時開演
ところ：銀座・王子ホール

学会からのお知らせ

『音楽表現学』Vol.6　発行準備

今回もたくさんの応募原稿があり，編集委員会ではうれしい悲鳴を上げながら，予定通りに11月30日発行に向けて着々と作業を進めています。投稿をお考えの方は，手続き，様式について『音楽表現学』Vol.5巻末の「投稿規定」および学会ホームページ（下記）をご覧ください。

http://www.jpc.shizuoka.ac.jp/~eokita/kitayama/toukoukiteI.htm

『音楽表現学』購入方法

必要な方はメイルで事務局までお申し込みください。

以下の代金は，到着後郵便振替でお願いします。

Vol.1～Vol.3は1部1500円＋送料，Vol.4は会員価格1部3000円，一般価格1部3500円＋送料で

ニューズレターへの投稿

ニューズレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見，掲載記事に関するご意見などを掲載します。

今回は「火の国大会」のパネルディスカッションについてご意見をいただきました。この分科会はこれまでの3回に引き続き，来年度にも計画が発展しつつあります。これまで3回の内容に関して，また，今後の発展に関してご意見を是非お寄せください。テーマはその他何に関してでも自由ですので，みなさまの投稿をお待ちします。

・研究ノート，随想など：全頁で23字×35行×2段で1600字以内でお願いします。
・新入会員の紹介：字数は150字以内。最近の関心事，研究に関することなどご自由にお書きください。なお，「よろしくお願いします」などの常套句は削除します。
・会員によるコンサート案内：タイトル，日時，会場，入場料，（出演者），曲目，連絡先をお知らせください。企画等で趣旨が必要な場合には80字以内でお願いします。
・原稿はwordを用い，メイルの添付書類でお願いします。受付は随時，送り先は学会事務局です。

学会の会員サポート制度をご活用ください

★ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると，大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には，その旨をお記し下さい。

★ 大会の口頭発表は，日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して，文字だけでは伝えられない音声を用い，これまでの研究を発信できる場，それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫，実践を披露し，その妥当性を問うワークショップなど，日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。

★ ニューズレター「コンサートのご案内」では，会員による各種の演奏，ワークショップ，イベントなどの活動紹介を行います。これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動をニューズレター最終頁の「後援願」の様式で，どしどしお寄せ下さい。

★「新刊案内」では，会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。

連絡先・所属変更について

ニューズレターや『大会要項』が宛先不明で返送されてくるケースがありました。連絡先・所属変更に関しては学会事務局まで必ずお知らせいただくようお願いいたします。

会長からの切実なお願い

日本音楽表現学会も発足から満４年を数え，会員数もついに200名の大台に達しました。活動内容も年とともに充実しつつあることは，機関誌『音楽表現学』からも推察いただけることと思います。ここにいたるまでの会員の皆さんの熱意に感謝申し上げ，また今後とも会の発展のためにお力添えをいただきたいと願っています。

さて，ご存じの通り，本学会の収入の大半は会員の会費によって賄われております。会の発足当初から財政状態は大変厳しく，その手当てとして役員が率先して年会費を数年分前納するなど，様々の工夫を凝らしてきましたが，会員数増大の割には財政状態は改善されませんでした。

その第一の原因は会費未納にあり，中には複数年にわたる方もいらっしゃいます。これらの累積赤字が学会の財政状態を圧迫しているのです。たとえば学会誌『音楽表現学』は未納の方たちにも等しく配布されています。ご覧いただければお分かりと思いますが，最新刊『音楽表現学』Vol.4は176ページにもおよぶ分量で，発行費用は3500円になります。現在，発行準備中のVol.5に関しても同程度の厚さになると予想されます。学会では他にニューズレターを年に3回発行していますから，郵送料も加えると実に年会費の９割がこれらに費やされることになります。つまり会費未納はほとんどそ
のまま学会の赤字となり，それを補うために他の会員が何年か分の会費を前納して凌いでいる状況です。

未納の方はおそらくご多忙のために会費納入の機会を逸しておられることと思います

第６回大会のご案内

on：2008年６月14日（土）－15日（日）@昭和音楽大学　新百合ヶ丘南校舎

（新宿駅から小田急線21分「新百合ヶ丘」駅前）

研究発表・ワークショップ・共同研究等申し込み〆切：2008年３月15日（土）

愛称公募（あなたが大会の名付親に!!!）　〆切：2007年11月15日（木）

設立大会→ライラック大会→アクア・ブルー大会→グリーン・アベニュー大会→火の国大会→？？？？？

新しい学会の、最新鋭の設備の中で音楽表現について一緒に考え、語り合いましょう！

（様式）

コンサート等後援願

日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所　　属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

コンサート等の名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

コンサート等の趣旨：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

主な内容：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

期　　日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

会　　場：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連 絡 先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（様式）

日本音楽表現学会入会申込書

日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

専門分野：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住　　所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所　　属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先Fax.番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

e-mail アドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

推薦者名（学会員・１名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

音楽表現学会に期待されること、ご意見等：

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ニューズレターの「新入会員のご紹介」欄のための原稿執筆のお願い

日本音楽表現学会ではニューズレターで新入会員の紹介を自己紹介の形式で行っています。申し込みと同時に原稿を送っていただくと、連絡や編集作業が順調に進むように思われます。ご協力をよろしくお願いいたします。

1) 自己紹介の内容：以下の項目の中から適宜選択して、文章にして下さい。
なお、「よろしくお願いします」などのご挨拶用文言は省きますので、あしからずご了承下さい。

・所属　・専門　・音楽表現について思うこと　・この頃思うこと
・モットー　・夢　・ホームページアドレス、等々

2) 字数：150字を超えない程度でお願いします。
3) メ切：入会申込書と同時にご提出ください。
4) 送付方法：メイルの本文またはワードの添付。メイルをお使いにならない方は郵送でお願いします。
5) 宛先：s-oku@cc.okayama-u.ac.jp

日本音楽表現学会　役員

会　　長：中村　隆夫
副 会 長：安藤　政輝、奥　忍
理　　事：川口　容子、権藤　敦子
佐々木正利、森川　京子
会計監事：若井　健司、加藤　晴子
編集委員長：杉江　淑子
副委員長：小西　潤子
委員：後藤　丹、小畑　郁男
佐野　仁美、谷口　雄資

編　集　後　記

今夏、イタリアでの会議中にコンピュータがクラッシュした。会議資料ばかりか、この6ヶ月間の音楽表現学会関係データが全て消えてしまった可能性がある。そんな不安を抱えながら、そして、その不安が現実になった場合の対処法を考えながら帰国。しかし、別の資料が続いたためにコンピュータの修理まで手が回らず、わが懐かしの iBook G4のデータが復元できたのは８月５日の夕刻であった。みなさん、バックアップはメモリスティックか、別付ハードディスクか、別のコンピュータにとっておきましょう。そんなわけでニューズレターの発行が遅れたことをお詫びします。（奥　忍）